

9.8 動物

9.8.1 調査結果の概要

(1) 調査内容

工事の実施、施設の存在に伴う動物への影響を予測及び評価するために、表9.8-1に示す項目について調査した。

表 9.8-1 動物の調査項目

| 調査項目 | |
|------|---|
| 動物 | <ul style="list-style-type: none"> 動物相の状況（生息種及び動物相の特徴） 保全すべき種の状況（保全すべき種の生息域（特に営巣地、繁殖地、採餌場所等に留意）及び個体数又は生息密度、生息環境） 生息環境（水象、地形、植生等） |

注) 動物相…哺乳類、鳥類、猛禽類、両生類、爬虫類、魚類、底生動物及び昆虫類

(2) 調査方法

1) 既存資料調査

既存資料調査では、表 9.8-2 に示す文献を収集、整理した。

表 9.8-2 既存資料調査の収集資料

| No. | 文献名等 | 整理対象分類群と整理内容 | | | | | | |
|-----|--|--------------|----|-----|-----|----|------|-----|
| | | 哺乳類 | 鳥類 | 爬虫類 | 両生類 | 魚類 | 底生動物 | 昆虫類 |
| 1 | 河川環境データベース(河川水辺の国勢調査) | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| | 各項目とも、綾瀬川(主に草加市)における最新の分布情報を整理。 | | | | | | | |
| 2 | 埼玉県レッドデータブック2008動物編(平成20年、埼玉県)(略称:埼玉県RDB) | ● | ● | ● | ● | ● | | ● |
| | 各項目とも、対象事業実施区域が位置する「加須・中川低地」及び近接する「大宮台地」における分布情報を整理。 | | | | | | | |
| 3 | 埼玉県動植物リスト(埼玉県ホームページ) | ● | ● | ● | ● | ● | | ● |
| | 各項目とも、川口市、さいたま市、草加市及び越谷市における分布情報を整理。 | | | | | | | |
| 4 | 川口市動物調査報告書(平成7年、川口市) | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| | 鳥類・昆虫類は川口市、哺乳類・爬虫類・両生類は戸塚地区、魚類・底生動物は綾瀬川(佐藤橋付近)における分布情報を整理。 | | | | | | | |
| 5 | 増補埼玉四季の鳥(昭和63年、(財)埼玉県野鳥の会) | | ● | | | | | |
| | 埼玉県における分布情報を整理。 | | | | | | | |
| 6 | 地元環境団体資料(綾瀬川を愛する会、自然探検コロボックルくらぶ等) | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| | 各項目とも、綾瀬の森(通称)等の対象事業実施区域近傍の分布情報を整理。 | | | | | | | |

2) 現地調査

ア 哺乳類

(ア) 直接観察及びフィールドサイン法

調査範囲内を任意に踏査して成体等の確認に努めたほか、足跡、糞、食痕等の痕跡（フィールドサイン）を目視で確認し、種・数を記録した。

(イ) トラップ法

主にネズミ類等の小型哺乳類を対象にシャーマントラップ（2 地点）を設置した。シャーマントラップは、1 地点あたり 20 個を、1 回あたり 1 晩設置した。

また、モグラ類の坑道が確認された際には、頻繁に利用していると考えられる坑道内にモグラ捕獲用のモールトラップを適宜設置した。

(ウ) 無人撮影法

主にホンドイタチ等の中型哺乳類を対象に無人撮影装置（2 地点）を設置した。無人撮影装置は、1 地点あたり 1 台を、1 回あたり 1 晩設置した。

イ 鳥類

(ア) 任意観察法

調査範囲内を任意に踏査して、双眼鏡を使用し、目視及び鳴き声によって確認された種を記録した。調査時間帯は鳥類の活動が活発な午前中を中心に実施した。

(イ) ラインセンサス法

調査範囲内に設定した調査ルート（2 ルート）において、時速 1~2km 程度の速さで歩きながら、双眼鏡を用いた目視及び鳴き声によって確認された種・個体数、確認環境、繁殖行動等を記録した。調査時間帯は鳥類の活動が活発な午前中を中心に実施した。

(ウ) ポイントセンサス法

調査範囲内に設定した調査地点（2 地点）において、双眼鏡や望遠鏡を使用し、確認された種・個体数、確認環境、繁殖行動等を記録した。調査時間帯は鳥類の活動が活発な午前中を中心に実施した。

ウ 猛禽類

(ア) 定点観察法

調査範囲内に設定した調査地点（2 地点）において、双眼鏡や望遠鏡を使用し、猛禽類の行動の観察を行い、飛翔状況（個体の識別や飛翔経路、その飛翔目的等）を記録した。

調査時間帯は 7～15 時の 8 時間とし、1 回あたり 2 日間連続で実施した。

エ 爬虫類・両生類

(ア) 直接観察法

調査範囲内を任意に踏査して、爬虫類・両生類の出現が予想される草地、林縁部等を中心に目視、石起こし及び捕獲によって確認された種・数を記録した。

オ 魚類

(ア) 捕獲調査

調査範囲内の綾瀬川に設定した調査地点（3 地点）において、投網、タモ網、セルビン等を用いて捕獲し、種・数を記録した。

カ 底生動物

(ア) 任意採集

調査範囲内の綾瀬川に設定した調査地点（3 地点）において、D フレームネット、サデ網等を用いて採集し、室内にてソーティング、実体顕微鏡を用いた種の同定を行った。

(イ) 定量採集

調査範囲内の綾瀬川に設定した調査地点（3 地点）において、サーバーネットを用いて採集し、室内にてソーティング、実体顕微鏡を用いた種の同定を行った。

キ 昆虫類

(ア) 直接観察及び任意採集

調査範囲内を任意に踏査して、目視や鳴き声による確認のほか、見つけ採りやスウィーピング法（タモを払う）及びビーティング法（枝を叩く）による任意採集を行った。

(イ) トラップ法

主に地表徘徊性のコウチュウ類、アリ類等を対象にベイトトラップ（2地点）を設置した。ベイトトラップは、1地点あたりプラスチック製のコップ等20個を、1回あたり1晩設置した。

また、夜間に灯火に集まる昆虫類を対象にライトトラップ（2地点）を設置した。ライトトラップは、1地点あたり1台を、1回あたり1晩設置（翌朝に回収）した。

(3) 調査地域・調査地点

1) 既存資料調査

調査地域は、対象事業実施区域及びその周辺とした。

2) 現地調査

調査地域は、対象事業実施区域及び周辺200mの範囲を基本とし、地元の環境活動が盛んな「綾瀬の森」を含めた範囲（以下「調査範囲」という。）とした。

調査範囲及び調査地点は図9.8-1、調査地点一覧は表9.8-3に示すとおりとした。

表 9.8-3 動物の調査地点

| 項目 | 調査地点 | | 調査方法 |
|-------------|-------------|--|---|
| 哺乳類 | M-1, 2 | 対象事業実施区域内の植栽環境 (M-1) 綾瀬川の堤防植生環境 (M-2) | トラップ法 (シャーマントラップ・ モールドラップ) 無人撮影法 |
| 鳥類 | BL-1, 2 | 対象事業実施区域内の植栽沿い (BL-1) 綾瀬川の堤防 (BL-2) | ラインセンサス法 |
| | BP-1, 2 | 対象事業実施区域の北側 (BP-1) 対象事業実施区域の南側 (BP-2) | ポイントセンサス法 |
| 猛禽類 | BP-1, 2 | 対象事業実施区域の北側 (BP-1) 対象事業実施区域の南側 (BP-2) | 定点観察法 |
| 魚類・ 底生動物 | F-1 BA-1 | 綾瀬川の上流部 | 捕獲調査 任意採集 定量採集 |
| | F-2 BA-2 | 排水路（既存施設の排水）が綾瀬川に流入する箇所 | |
| | F-3 BA-3 | 綾瀬川の下流部 | |
| 昆虫類 | I-1, 2 | 対象事業実施区域内の植栽環境 (I-1) 綾瀬川の堤防植生環境 (I-2) | トラップ法 (ベイトトラップ、 ライトトラップ) |

注) 現地調査地点の位置は図9.8-1に、任意観察ルートは図9.8-2に示すとおりである。

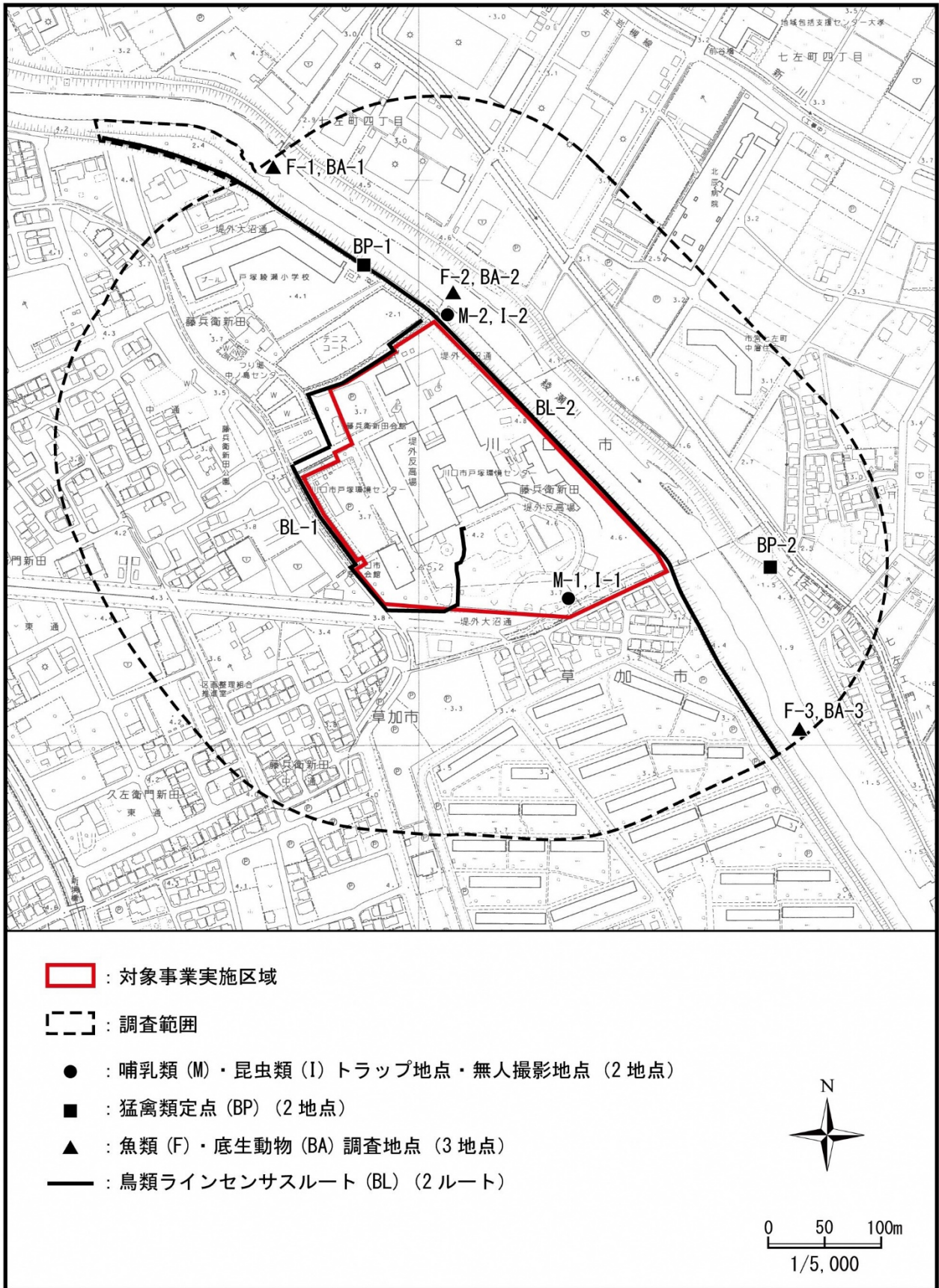


図 9.8-1 動物の調査範囲及び調査地点

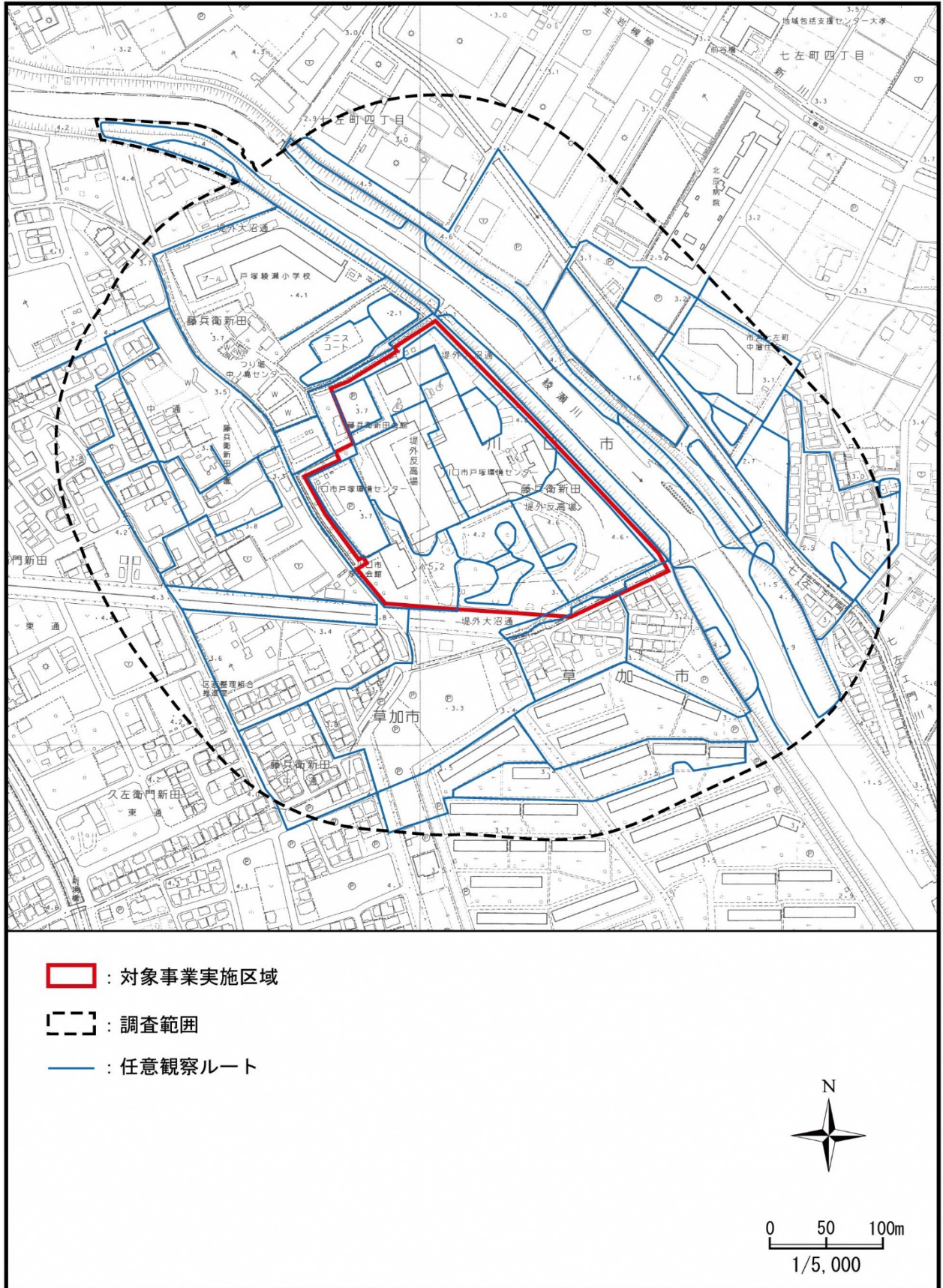


図 9.8-2 動物の任意観察ルート

(4) 調査期間等

1) 既存資料調査

既存資料は、入手可能な最新年の資料を入手した。

2) 現地調査

動物の調査期間等は、表 9.8-4 に示すとおりとした。

表 9.8-4 動物の調査期間等

| 項目 | 調査期間 |
|---------|---|
| 哺乳類 | 夏 季 (平成 30 年 7 月 12 日～13 日) 秋 季 (平成 30 年 10 月 11 日～12 日) 冬 季 (平成 31 年 1 月 28 日～29 日) 春 季 (令和元年 5 月 21 日～22 日) |
| 鳥類 | 繁殖期 (平成 30 年 6 月 4 日) 夏 季 (平成 30 年 7 月 9 日) 秋 季 (平成 30 年 10 月 12 日) 冬 季 (平成 31 年 1 月 29 日) 春 季 (令和元年 5 月 9 日) |
| 猛禽類 | 第 1 回 (平成 31 年 2 月 25 日～26 日) 第 2 回 (平成 31 年 3 月 25 日～26 日) 第 3 回 (平成 31 年 4 月 18 日～19 日) 第 4 回 (令和元年 5 月 21 日～22 日) 第 5 回 (令和元年 6 月 13 日～14 日) 第 6 回 (令和元年 7 月 16 日～17 日) |
| 爬虫類・両生類 | 夏 季 (平成 30 年 7 月 13 日) 秋 季 (平成 30 年 10 月 11 日) 早春季 (平成 31 年 4 月 9 日) 春 季 (令和元年 5 月 10 日) |
| 魚類 | 夏 季 (平成 30 年 7 月 10 日～11 日) 秋 季 (平成 30 年 10 月 9 日～10 日) 冬 季 (平成 31 年 1 月 28 日～29 日) 春 季 (令和元年 5 月 23 日～24 日) |
| 底生動物 | 夏 季 (平成 30 年 7 月 10 日～11 日) 秋 季 (平成 30 年 10 月 9 日～10 日) 冬 季 (平成 31 年 1 月 28 日～29 日) 春 季 (令和元年 5 月 23 日～24 日) |
| 昆虫類 | 初夏季 (平成 30 年 6 月 18 日～19 日) 夏 季 (平成 30 年 8 月 27 日～28 日) 秋 季 (平成 30 年 10 月 9 日～10 日) 早春季 (平成 31 年 4 月 8 日～9 日) 春 季 (令和元年 5 月 9 日～10 日) |

(5) 保全すべき種の選定

保全すべき種の選定基準は、表9.8-5に示すとおりとした。

表 9.8-5 保全すべき種の選定基準

| No. | 文献及び法令名 | 区分 | 略号 |
|-----|--|---|---|
| ① | 文化財保護法 (昭和 25 年、法律第 214 号) | 特別天然記念物 天然記念物 | 特天 天 |
| ② | 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律 (平成 4 年、法律第 75 号) (以下、「種の保存法」という。) | 国内希少野生動植物種 国際希少野生動植物種 特定国内希少野生動植物種 | 国内 国際 特定 |
| ③ | 埼玉県文化財保護条例 (昭和 30 年、埼玉県条例第 46 号) (以下、「埼玉県文化財」という。) | 県指定天然記念物 | 県天 |
| ④ | 埼玉県希少野生動植物の種の保存に関する条例 (平成 12 年、埼玉県条例第 11 号) (以下、「埼玉県保護条例」という。) | 県内希少野生動植物種 | 希少 |
| ⑤ | 環境省レッドリスト 2019 (平成 31 年、環境省) (以下、「環境省 R L 2019」という。) | 絶滅 野生絶滅 絶滅危惧 I 類 絶滅危惧 I A 類 絶滅危惧 I B 類 絶滅危惧 II 類 準絶滅危惧 情報不足 絶滅のおそれのある地域個体群 | EX EW CR+EN CR EN VU NT DD LP |
| ⑥ | 埼玉県レッドデータブック 動物編 2018 (第 4 版) (平成 30 年、埼玉県環境部みどり自然課) (以下、「埼玉県 R D B 2018」という。) | 絶滅 野生絶滅 絶滅危惧 I 類 絶滅危惧 I A 類 絶滅危惧 I B 類 絶滅危惧 II 類 準絶滅危惧 準絶滅危惧 1 型 準絶滅危惧 2 型 情報不足 絶滅のおそれのある地域個体群 地帯別危惧 | EX EW CR+EN CR EN VU NT NT1 NT2 DD LP RT |

(6) 調査結果

1) 既存資料調査

「川口市動物調査報告書」（平成7年、川口市）によると、川口市において、哺乳類はアズマモグラ及びホンドイタチ、鳥類はカイツブリ、カルガモ、チョウゲンボウ等、昆虫類はサラサヤンマ、アオマツムシ、ヘイケボタル等が確認され、戸塚地区において、爬虫類はクサガメ、スッポン及びヤマカガシ、両生類はアマガエル、トウキョウダルマガエル及びウシガエルが確認され、綾瀬川佐藤橋付近において、魚類はタイリクバラタナゴ、モツゴ、ギンブナ等、底生動物はシマイシビル、ミズムシ、アメリカザリガニ等が確認されている。

また、保全すべき種として、鳥類134種、爬虫類12種、両生類6種、魚類16種、底生動物80種、昆虫類238種が確認されている。保全すべき種の一覧は、前掲「第3章 対象事業実施区域及びその周囲の概況 3.2 自然的状況 (5) 動物の生息、植物の生育、植生、緑の量及び生態系の状況 ア 動物」に示すとおりである。

2) 現地調査

ア 動物相の概況

現地調査の結果、哺乳類 3 目 5 科 5 種、鳥類 12 目 27 科 51 種、猛禽類 1 目 2 科 5 種、爬虫類・両生類 3 目 7 科 11 種、魚類 5 目 12 科 24 種、底生動物 18 目 29 科 71 種、昆虫類 12 目 160 科 550 種が確認された。ただし、鳥類は鳥類調査で確認された種数を、猛禽類は猛禽類調査で確認された種数を示す。

動物相の確認状況は表 9.8-6 に示すとおりである。

表 9.8-6 動物相の確認状況（現地調査）

| 項目 | 確認種数 | 主な確認種 |
|-------------|------------------|---|
| 哺乳類 | 3 目 5 科 5 種 | アズマモグラ、ハツカネズミ、アライグマ、ホンドタヌキ、ハクビシン |
| 鳥類 | 12 目 27 科 51 種 | アオサギ、カルガモ、チョウゲンボウ、キジバト、ハクセキレイ、ヒヨドリ、シジュウカラ、ホオジロ、スズメ、ムクドリ、ハシブトガラス等 |
| 猛禽類 | 1 目 2 科 5 種 | ツミ、ハイタカ、サシバ、ハヤブサ、チョウゲンボウ |
| 爬虫類・ 両生類 | 3 目 7 科 11 種 | クサガメ、アカミミガメ、ヤモリ、カナヘビ、シマヘビ、アオダイショウ、アズマヒキガエル、アマガエル、トウキョウダルマガエル、ヌマガエル、ウシガエル |
| 魚類 | 5 目 12 科 24 種 | ウナギ、オイカワ、スゴモロコ、ニゴイ、コイ、ギンブナ、タイリクバラタナゴ、ドジョウ、メダカ、カダヤシ、ボラ、カムルチー、コクチバス、ヌマチチブ、マハゼ等 |
| 底生動物 | 18 目 29 科 71 種 | シジミ属、モトムラユリミミズ、ユリミミズ、イトミミズ亜科、テナガエビ、カワリヌマエビ属、クロフトヒゲコカゲロウ、アメンボ、ユスリカ属、カマガタユスリカ属、ハモンユスリカ属等 |
| 昆虫類 | 12 目 160 科 550 種 | モリチャバネゴキブリ、ヤブキリ、アワダチソウゲンバイ、ナミテントウ、ハリブトシリアゲアリ、キイロシリアゲアリ、アミメアリ、トビイロシワアリ、クロヤマアリ、トビイロケアリ、ユスリカ科の一種、ホソヒメヒラタアブ、ヤマトシジミ本土亜種等 |

注) 鳥類は鳥類調査で確認された種数を、猛禽類は猛禽類調査で確認された種数を示す。

イ 哺乳類

(ア) 確認種

現地調査の結果、哺乳類は表 9.8-7 に示す 3 目 5 科 5 種が確認された。

調査範囲の環境は、主に市街地等であり、綾瀬川沿いに草地や水田環境が存在する。また、植栽地等の樹林環境がパッチ状に分布する。

草地や市街地等でホンドタヌキやハクビシンが確認された。また、河川敷において、シャーントラップでハツカネズミが、モールトラップでアズマモグラが確認された。そのほか、特定外来生物のアライグマが草地や水田環境で確認された。

表 9.8-7 確認種一覧（哺乳類）

| No. | 目名 | 科名 | 種名 | 調査範囲 | | | | | | | |
|-----|---------|--------|--------|-----------|----|----|----|-----------|----|----|----|
| | | | | 対象事業実施区域内 | | | | 対象事業実施区域外 | | | |
| | | | | 夏季 | 秋季 | 冬季 | 春季 | 夏季 | 秋季 | 冬季 | 春季 |
| 1 | モグラ(食虫) | モグラ | アズマモグラ | | | | ● | ● | ● | ● | ● |
| 2 | ネズミ(齧歯) | ネズミ | ハツカネズミ | | | | | | | ● | |
| 3 | ネコ(食肉) | アライグマ | アライグマ | | | | | ● | ● | | |
| 4 | | イヌ | ホンドタヌキ | ● | ● | ● | | ● | ● | ● | |
| 5 | | ジャコウネコ | ハクビシン | ● | ● | | | | ● | | ● |
| 計 | 3目 | 5科 | 5種 | 2種 | 2種 | 1種 | 1種 | 3種 | 4種 | 3種 | 2種 |
| | | | | 3種 | | | | 5種 | | | |

注) 種名・配列は、基本的に「日本産野生生物目録 -本邦産野生動植物の種の現状- (脊椎動物編)」(平成5年、環境庁)に従った。

(イ) 保全すべき種

保全すべき種は確認されなかった。

ウ 鳥類

(ア) 確認種

現地調査の結果、鳥類は表 9.8-8 に示す 12 目 27 科 51 種が確認された。

調査範囲の環境は、主に市街地等であり、綾瀬川沿いに草地や水田環境が存在する。また、植栽地等の樹林環境がパッチ状に分布する。

市街地等ではドバト、スズメ、ハシボソガラス等、綾瀬川やその周辺の水田環境ではアオサギ、カルガモ、バン等、草地環境ではオオヨシキリ、ホオジロ、キジ等が確認された。また、チョウゲンボウ等の農耕地などに生息する猛禽類が確認された。また、パッチ状に分布する樹林環境では、コゲラ、シジュウカラ、オナガ等が確認された。

表 9.8-8 確認種一覧（鳥類）

| No. | 目名 | 科名 | 種名 | 調査範囲 | | | | | | | | | | | | |
|-----|--------|---------|---------|-----------|-----|-----|-----|-----|-----------|-----|-----|-----|-----|---|---|--|
| | | | | 対象事業実施区域内 | | | | | 対象事業実施区域外 | | | | | | | |
| | | | | 繁殖期 | 夏季 | 秋季 | 冬季 | 春季 | 繁殖期 | 夏季 | 秋季 | 冬季 | 春季 | | | |
| 1 | カイツブリ | カイツブリ | カイツブリ | | | | | | | | | ● | ● | ● | | |
| 2 | ペリカン | ウ | カワウ | | ● | | | ● | ● | ● | | | ● | ● | | |
| 3 | コウノトリ | サギ | ゴイサギ | | ● | | | | ● | ● | | | | | | |
| 4 | | | ダイサギ | | | | ● | | | ● | | | | ● | | |
| 5 | | | チュウサギ | | | | | | | | | | | | ● | |
| 6 | | | コサギ | | | | | | | | | | | ● | ● | |
| 7 | | | アオサギ | | | | | | | | ● | ● | ● | ● | ● | |
| 8 | カモ | カモ | マガモ | | | | | | | | | | ● | | | |
| 9 | | | カルガモ | | | | | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | |
| 10 | | | コガモ | | | | | | | | ● | ● | ● | ● | | |
| 11 | | | ヒドリガモ | | | | | | | ● | | | ● | | | |
| 12 | | | ハシビロガモ | | | | | | | | | ● | | | | |
| 13 | タカ | タカ | トビ | | | | ● | | | | | | ● | | | |
| 14 | | | オオタカ | | | | | | | | | ● | | | | |
| 15 | | ハヤブサ | チョウゲンボウ | ● | | ● | ● | | ● | ● | ● | ● | | | | |
| 16 | キジ | キジ | キジ | | | | | | | | | | ● | ● | | |
| 17 | ツル | クイナ | クイナ | | | | | | | | | | | ● | | |
| 18 | | | バン | | | | | | ● | | ● | ● | ● | ● | | |
| 19 | | | オオバン | | | | | | | | | ● | ● | ● | ● | |
| 20 | チドリ | チドリ | コチドリ | | ● | | | | | ● | ● | | | | | |
| 21 | | | シギ | イソシギ | | | | | | | | | | ● | ● | |
| 22 | | | タシギ | | | | | | | | | | | ● | | |
| 23 | | カモメ | ユリカモメ | | | | ● | | | | | | | ● | ● | |
| 24 | コアシサシ | | | | | | | | | | | | | ● | | |
| 25 | ハト | ハト | キジバト | ● | | ● | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | |
| 26 | | | ドバト | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | |
| 27 | ブッポウソウ | カワセミ | カワセミ | | | | | ● | ● | | ● | ● | ● | ● | | |
| 28 | キツツキ | キツツキ | コゲラ | ● | ● | | | | ● | ● | ● | ● | | | | |
| 29 | スズメ | ツバメ | ツバメ | ● | ● | | | ● | ● | ● | | | | ● | | |
| 30 | | セキレイ | ハクセキレイ | ● | | ● | ● | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | |
| 31 | | ヒヨドリ | ヒヨドリ | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | |
| 32 | | モズ | モズ | | | | ● | | | | ● | ● | ● | | | |
| 33 | | ヒタキ | ジョウビタキ | | | | | | | | | | | ● | | |
| 34 | | | イソヒヨドリ | | | | ● | | | | | | | | | |
| 35 | | | ツグミ | | | | | | | | | | | ● | ● | |
| 36 | | | ウグイス | | | | | | | | | | | ● | | |
| 37 | | | オオヨシキリ | | | | | | | | | | ● | | ● | |
| 38 | | エナガ | エナガ | | | | | | | | ● | | ● | | | |
| 39 | | シジュウカラ | シジュウカラ | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | |
| 40 | | メジロ | メジロ | | | ● | ● | | | | | | | ● | ● | |
| 41 | | ホオジロ | ホオジロ | | | | | | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | |
| 42 | アオジ | | | | | | | | | | | | ● | | | |
| 43 | オオジュリン | | | | | | | | | | | | ● | | | |
| 44 | アトリ | カワラヒワ | | ● | ● | ● | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | |
| 45 | | | シメ | | | | | | | | | | | ● | | |
| 46 | ハタオリドリ | スズメ | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | |
| 47 | ムクドリ | コムクドリ | | | | | | | | | | | | ● | | |
| 48 | | ムクドリ | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | |
| 49 | カラス | オナガ | | | ● | ● | | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | |
| 50 | | ハシボソガラス | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | |
| 51 | | ハシブトガラス | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | |
| 計 | 12目 | 27科 | 51種 | 13種 | 13種 | 14種 | 13種 | 12種 | 22種 | 23種 | 25種 | 40種 | 33種 | | | |
| | | | | 24種 | | | | | 50種 | | | | | | | |

注) 種名・配列は、基本的に「日本産野生生物目録 -本邦産野生動植物の種の現状- (脊椎動物編)」(平成5年、環境庁)に従った。

(イ) 保全すべき種

現地調査の結果、保全すべき種は、チュウサギ、コサギ、トビ、オオタカ、チョウゲンボウ、クイナ、バン、オオバン、イソシギ、タシギ、コアジサシ、カワセミ、ウグイス、オオヨシキリ、ホオジロ、アオジ及びコムクドリの17種が確認された。保全すべき種一覧は表9.8-9、調査季節別の保全すべき種の確認位置は図9.8-3(1)～(5)、保全すべき種の生態及び確認状況は表9.8-10(1)～(17)に示すとおりである。

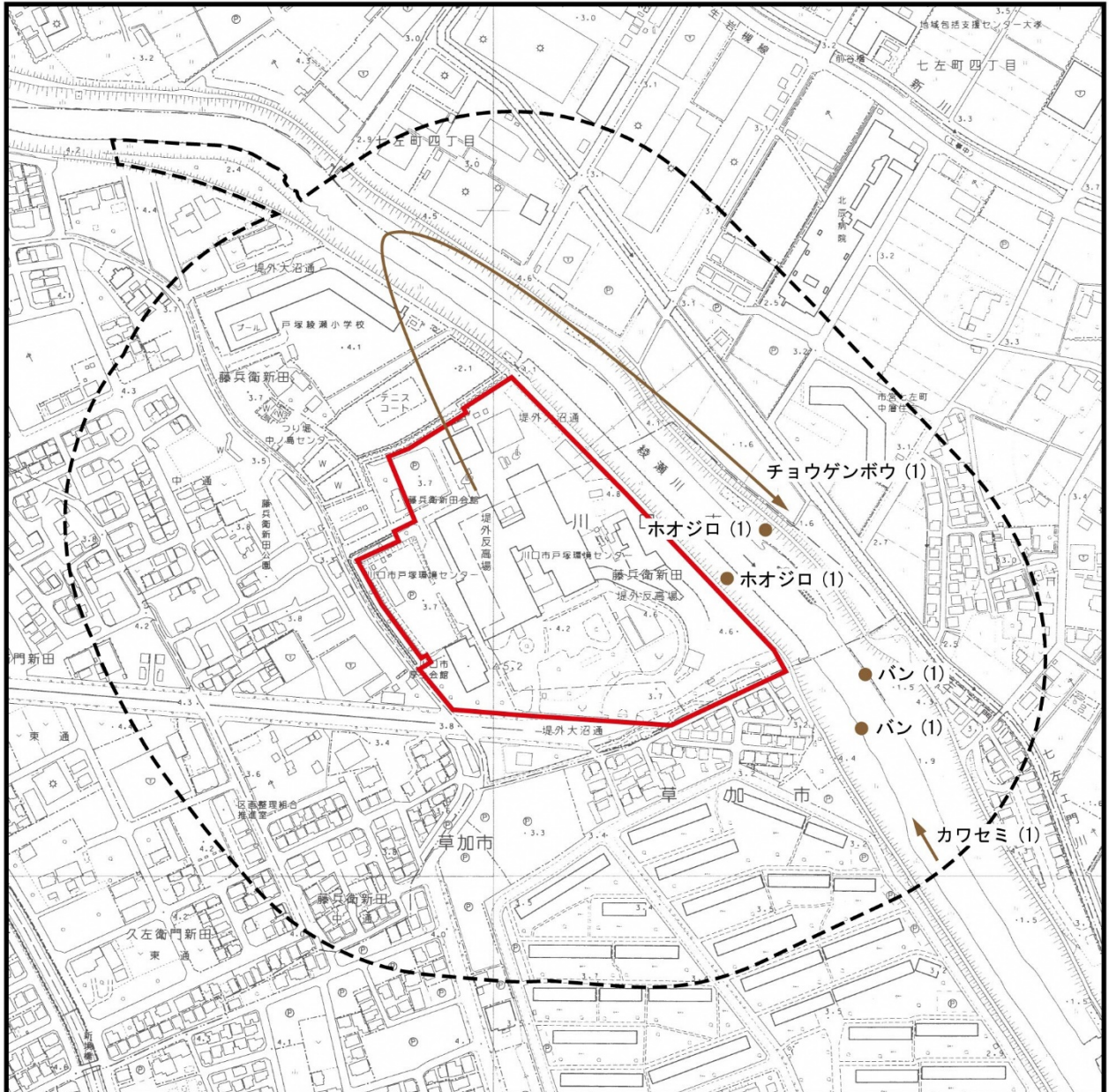
表9.8-9 保全すべき種一覧(鳥類)

| No. | 目名 | 科名 | 種名 | 渡り区分 | 対象事業実施区域 | | 保全すべき種の選定基準 | | | | | | | | | | |
|-----|--------|------|---------|------|----------|-----|-------------|-------|----------|---------|-------------|-------------|-----------|------------|-----------|------------|----|
| | | | | | | | 文化財保護法 | 種の保存法 | 埼玉県文化財条例 | 埼玉県保護条例 | 環境省R.L.2019 | 埼玉県RDB 2018 | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 大宮 | | 中川・加須 | | 全県 | |
| 内 | 外 | 繁殖鳥 | 越冬鳥 | 繁殖鳥 | 越冬鳥 | 繁殖鳥 | 越冬鳥 | | | | | | | | | | |
| 1 | コムクドリ | サギ | チュウサギ | 夏鳥 | | ● | | | | | NT | NT2 | | NT2 | | VU | |
| 2 | | | コサギ | 留鳥 | | ● | | | | | | NT2 | | NT2 | | NT2 | |
| 3 | タカ | タカ | トビ | 留鳥 | ● | ● | | | | | | DD | | | | DD | |
| 4 | | | オオタカ | 留鳥 | | ● | | | | NT | VU | NT2 | VU | VU | VU | VU | VU |
| 5 | | ハヤブサ | チョウゲンボウ | 留鳥 | ● | ● | | | | | | NT2 | | NT2 | | NT2 | |
| 6 | ツル | クイナ | クイナ | 留鳥 | | ● | | | | | | VU | | VU | | VU | VU |
| 7 | | | バン | 留鳥 | | ● | | | | | | NT2 | | NT2 | | NT2 | |
| 8 | | | オオバン | 冬鳥 | | ● | | | | | | NT1 | | NT1 | | NT1 | |
| 9 | チドリ | シギ | イソシギ | 留鳥 | | ● | | | | | | VU | | VU | | VU | |
| 10 | | | タシギ | 冬鳥 | | ● | | | | | | NT2 | | NT2 | | RT | |
| 11 | | カモメ | コアジサシ | 夏鳥 | | ● | | | | VU | CR | | CR | | CR | | |
| 12 | ブッポウソウ | カワセミ | カワセミ | 留鳥 | ● | ● | | | | | | LP | | LP | | RT | |
| 13 | スズメ | ヒタキ | ウグイス | 留鳥 | | ● | | | | | | | | | | RT | |
| 14 | | | オオヨシキリ | 夏鳥 | | ● | | | | | | NT2 | | NT2 | | NT2 | |
| 15 | | ホオジロ | ホオジロ | 留鳥 | | ● | | | | | | NT2 | | NT2 | | RT | |
| 16 | | | アオジ | 冬鳥 | | ● | | | | | | | | | | DD | |
| 17 | | | コムクドリ | 夏鳥 | | ● | | | | | | | | | | DD | |
| 計 | 6目 | 10科 | 17種 | | 3種 | 17種 | 0種 | 0種 | 0種 | 0種 | 3種 | 12種 14種 | 3種 13種 | 11種 13種 | 3種 17種 | 15種 17種 | 3種 |

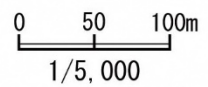
注1)種名・配列は、基本的に「日本産野生生物目録 -本邦産野生動物の種の現状- (脊椎動物編)」(平成5年、環境庁)に従った。

- 2)渡り区分は基本的に「BIRD WATCHING 増補 埼玉四季の鳥」(昭和58年、埼玉新聞社)に準拠した。
 留鳥：一年中同一地域に留まる種
 夏鳥：春に南方の越冬地から渡来して繁殖し、秋に再び南方へ飛去する種
 冬鳥：秋に北方の繁殖地から渡来して越冬し、春に再び北方へ飛去する種
 旅鳥：春秋の渡りの途中のみ見られる種

3)保全すべき種の選定基準となる法令・文献及び評価区分は前掲表9.8-5のとおりである。

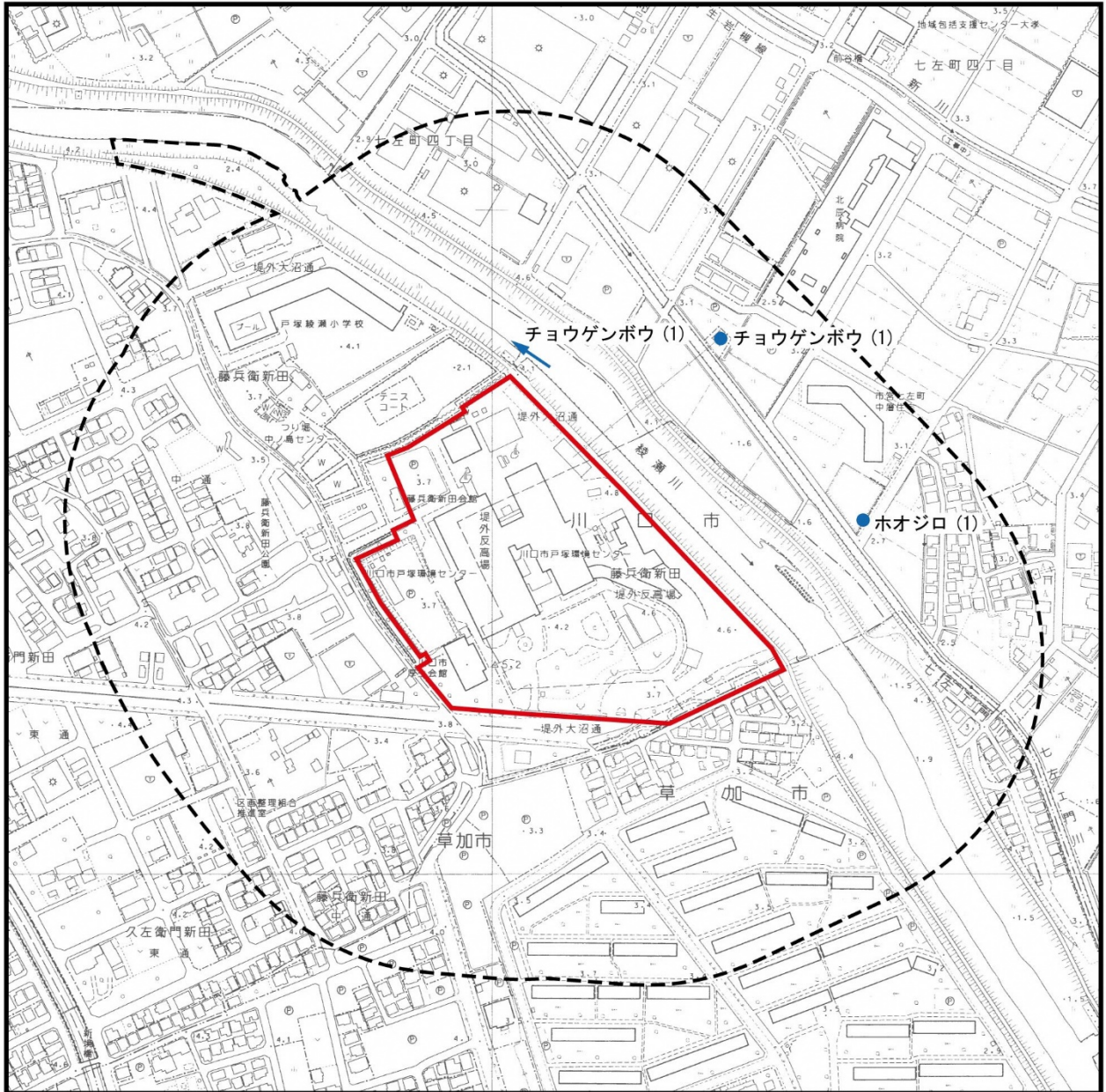


- : 対象事業実施区域
- : 調査範囲
- ➔ : 保全すべき種確認位置（繁殖期）

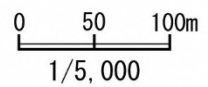


注) () 内の数字は、確認例数を示す。

図 9.8-3(1) 保全すべき種の確認位置（鳥類：繁殖期）

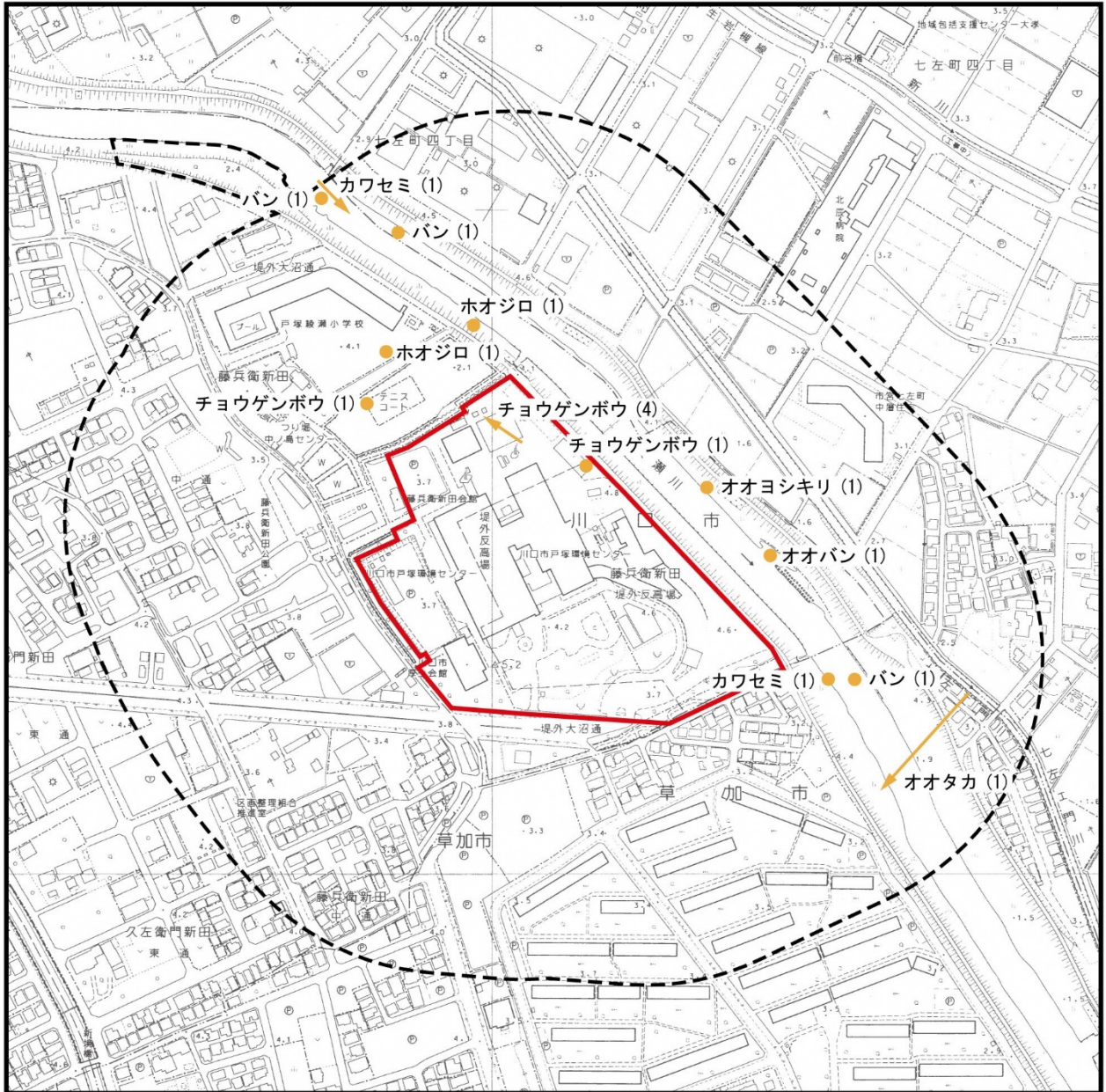


- : 対象事業実施区域
- : 調査範囲
- : 保全すべき種確認位置（夏季）

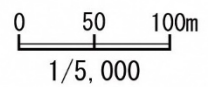


注) () 内の数字は、確認例数を示す。

図 9.8-3(2) 保全すべき種の確認位置（鳥類：夏季）



- : 対象事業実施区域
- : 調査範囲
- ➔ : 保全すべき種確認位置（秋季）



注) () 内の数字は、確認例数を示す。

図 9.8-3(3) 保全すべき種の確認位置（鳥類：秋季）

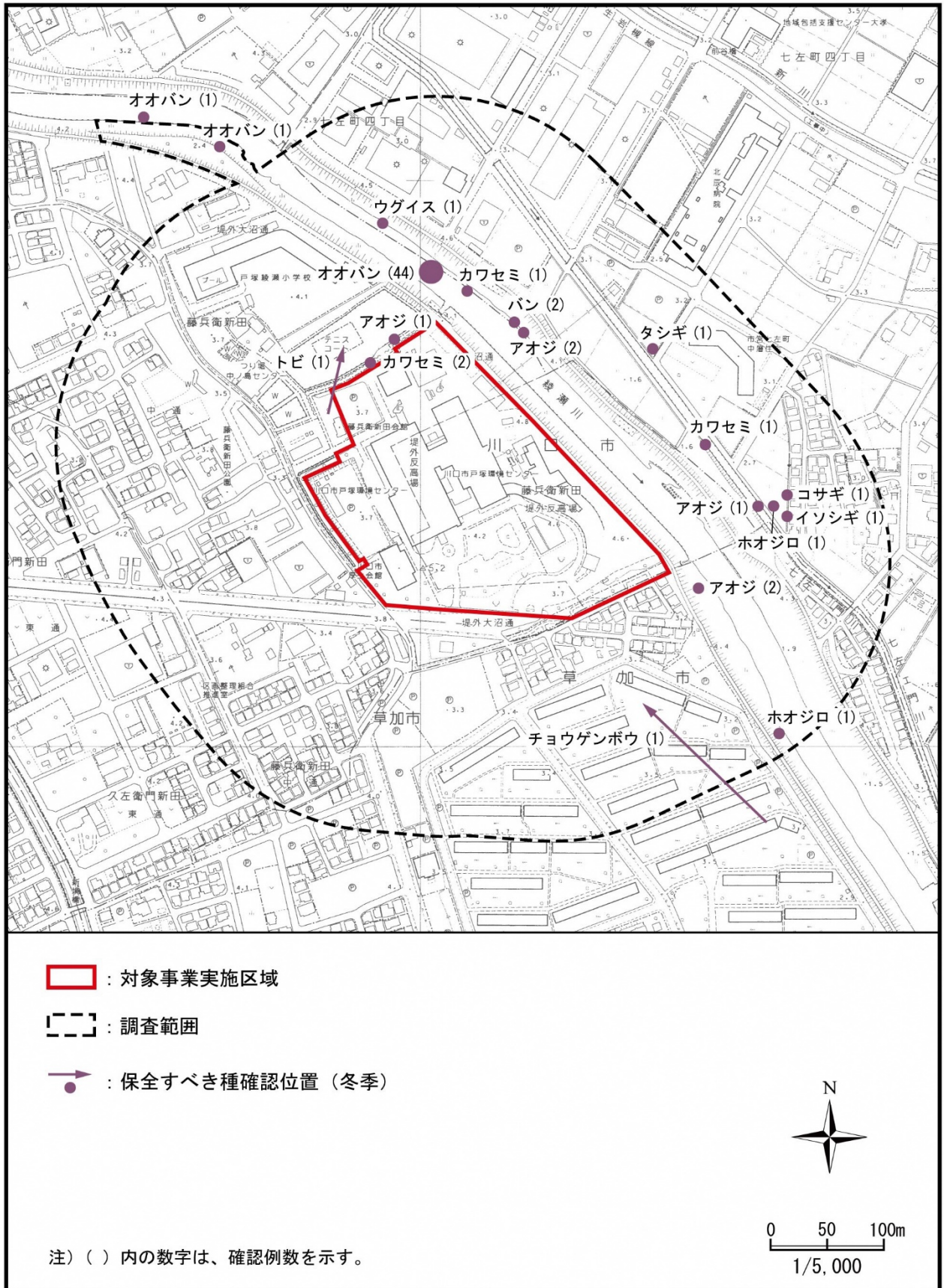
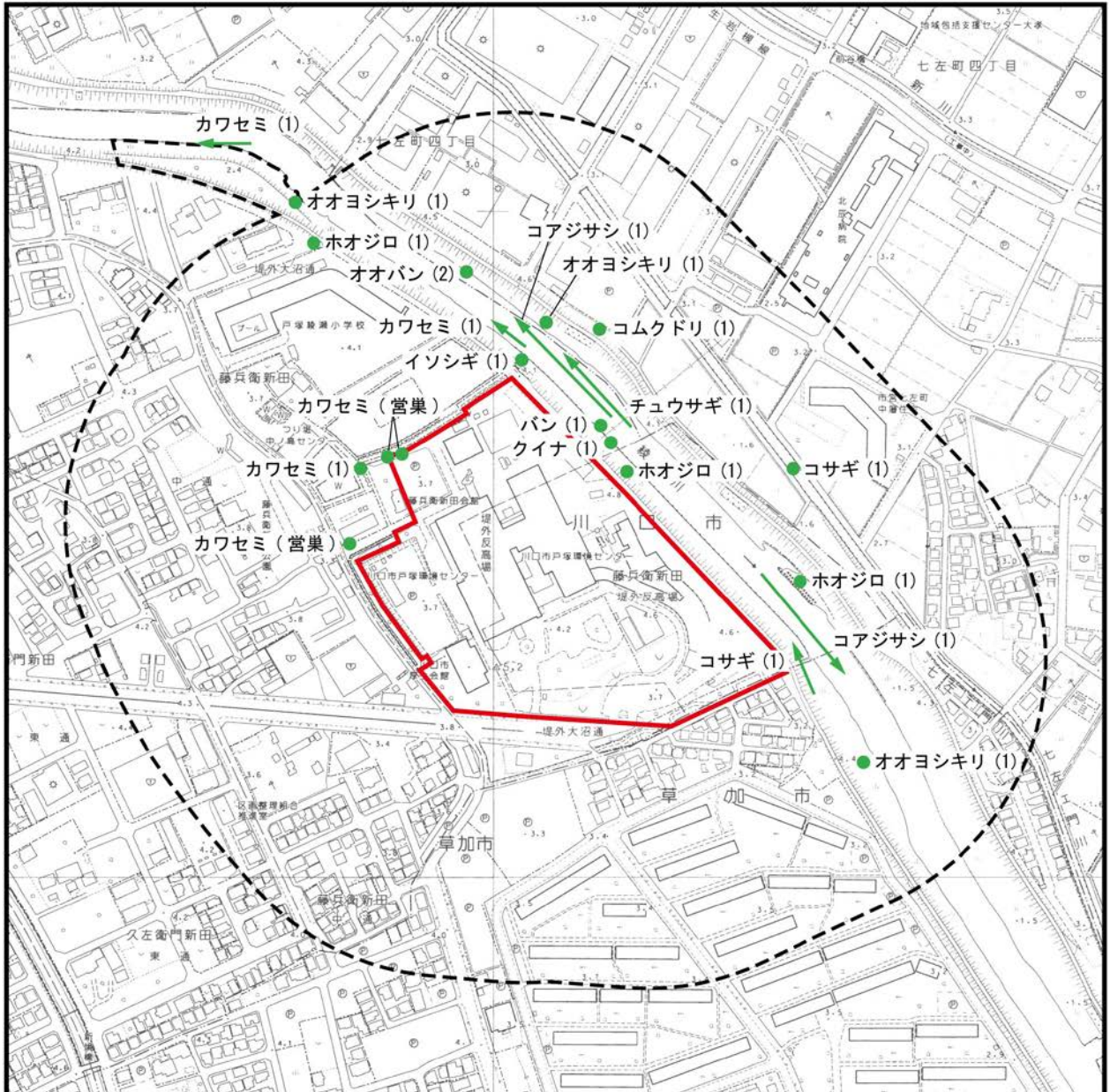
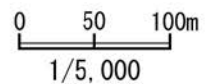


図 9.8-3(4) 保全すべき種の確認位置 (鳥類：冬季)




- : 対象事業実施区域
- : 調査範囲
- ➔ : 保全すべき種確認位置（春季）



注) () 内の数字は、確認例数を示す。



図 9.8-3(5) 保全すべき種の確認位置（鳥類：春季）

表 9.8-10(1) 保全すべき種の生態及び確認状況（鳥類）

| | | | | | | | |
|----------|--|---|---|----|------------|------|-------------|
| 科名 | サギ科 | | | | | | |
| 種名 | チュウサギ | | | | | | |
| 重要性 | 文化財 | — | | | | | |
| | 保存法 | — | | | | | |
| | 環境省 | 準絶滅危惧 | | | | | |
| | 埼玉県 | <table border="1"> <tr> <td>全県</td> <td>絶滅危惧Ⅱ類（繁殖）</td> </tr> <tr> <td>大宮台地</td> <td>準絶滅危惧2型（繁殖）</td> </tr> <tr> <td>中川・加須低地</td> <td>準絶滅危惧2型（繁殖）</td> </tr> </table> | | 全県 | 絶滅危惧Ⅱ類（繁殖） | 大宮台地 | 準絶滅危惧2型（繁殖） |
| 全県 | 絶滅危惧Ⅱ類（繁殖） | | | | | | |
| 大宮台地 | 準絶滅危惧2型（繁殖） | | | | | | |
| 中川・加須低地 | 準絶滅危惧2型（繁殖） | | | | | | |
| 分布状況 | 夏鳥として日本に渡来し本州、中国、四国で繁殖する。九州本部、南西諸島では越冬するものもいる。 | | 確認個体 | | | | |
| 形態・生息場所 | <p>【形態】全長 65～72cm、翼開長 105～115cm。全身が白色でコサギよりも大きい。嘴は短めで足指は黒い。夏羽では嘴が黒く背と胸に飾り羽がある。冬羽では嘴が黄色となる。</p> <p>【主な生息環境】水田、河川、沼地、干潟等の水辺に棲む。稲刈り時にコンバインの後につき、飛び出したカエルやバッタなどを捕えている姿がよく見られる。ダイサギ、コサギ、アマサギ、ゴイサギなどと一緒にコロニーを作り営巣している。</p> | |  <p>確認環境</p> | | | | |
| 県内での生息状況 | かつて、サギ類のコロニーとして国指定の天然記念物「野田（旧浦和市）の鷺山」があったが 1972 年になくなった。現在、コロニーは久喜市、東松山市、越谷市等数ヶ所が知られており、チュウサギはそれらコロニーの主要構成種として繁殖している。従前知られていた花園町のコロニーは営巣木が伐採されなくなった。また鴻巣市の小規模なコロニーも 2016 年には繁殖が見られなくなった。秋の渡り期（8 月～10 月）には、南方への渡り途中の群れが水田で採餌する姿をよく見る。 | | | | | | |
| 現地確認状況 | 春 季：対象事業実施区域外の綾瀬川上空を飛行する 1 例が確認された。 | | | | | | |

資料：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第 4 版）」（平成 30 年、埼玉県）

表 9.8-10(2) 保全すべき種の生態及び確認状況（鳥類）

| | | | | | | | |
|----------|---|--|---|----|---------------|------|---------------|
| 科名 | サギ科 | |  | | | | |
| 種名 | コサギ | | | | | | |
| 重要性 | 文化財 | — | | | | | |
| | 保存法 | — | | | | | |
| | 環境省 | — | | | | | |
| | 埼玉県 | <table border="1"> <tr> <td>全県</td> <td>準絶滅危惧 2 型（繁殖）</td> </tr> <tr> <td>大宮台地</td> <td>準絶滅危惧 2 型（繁殖）</td> </tr> <tr> <td>中川・加須低地</td> <td>準絶滅危惧 2 型（繁殖）</td> </tr> </table> | | 全県 | 準絶滅危惧 2 型（繁殖） | 大宮台地 | 準絶滅危惧 2 型（繁殖） |
| 全県 | 準絶滅危惧 2 型（繁殖） | | | | | | |
| 大宮台地 | 準絶滅危惧 2 型（繁殖） | | | | | | |
| 中川・加須低地 | 準絶滅危惧 2 型（繁殖） | | | | | | |
| 分布状況 | 留鳥で本州、四国、九州で繁殖し全国で記録がある。2015年に沖縄県で繁殖したという情報がある。 | | 確認個体 | | | | |
| 形態・生息場所 | <p>【形態】 全長 55～65cm、翼開長 90～105cm。全身が白く、嘴が長めで趾が黄色いサギである。夏羽では白い冠羽があり飾り羽が見られる。嘴は一年中黒い。水の中で足を小刻みに震わせ、餌を追い出して捕らえる姿が見られる。</p> <p>【主な生息環境】 水田、河川、湖沼、干潟、湿地で見られ主に小魚を捕る。</p> | |  | | | | |
| 県内での生息状況 | <p>通年、県内各地の水田、河川、湖沼、湿地で見られるが、最近著しく減少している。オオクチバスやカワウなどが小魚を捕食することから、本種の餌資源の減少が原因のひとつとして指摘されている。</p> | | | | | | |
| 現地確認状況 | <p>冬 季：対象事業実施区域外の水田横の水路で 1 例が確認された。</p> <p>春 季：対象事業実施区域外の綾瀬川付近を飛行する 1 例、綾瀬川東側の水路内で採餌する 1 例が確認された。</p> | | | | | | |

資料：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第 4 版）」（平成 30 年、埼玉県）